

川崎市で発見されたハクビシン *Paguma Larvata* の 死体解剖事例について

山本 祐治*¹・木下 あけみ*²

A short note on dissection of Masked Palm Civet (*Paguma Larvata*) collected
in Kawasaki city

Yuji YAMAMOTO, Akemi KINOSHITA

I はじめに

ハクビシン *Paguma Larvata* は、食肉目ジャコウネコ科に属し、インド、ネパール、中国、台湾、ボルネオ等に広く分布している。日本における分布は、本州、四国、北海道であるが分布域が飛び地状に限定されており、国外から人為的に持ち込まれた帰化種とする見方が有力である。神奈川県における分布については、塩沢ほか (1984)、古内ほか (1988)、中村ほか (1989)、中村 (1991)、中村・石原 (1992)、有馬ほか (1993) の研究があるが、これまで川崎市での生息は知られていなかった。

川崎市青少年科学館では、市域の野生動物の分布及び生態調査を行っているが、今回、多摩区・高津区でハクビシンの死体を入手した。科学館では、同じ中型食肉類としては、今までにホンダタヌキ (以下タヌキ) 及びホンダギツネを収集しているが、ハクビシンは今回が初めてである。解剖の結果、死因・胃内容物等の知見を得たので報告する。なお、標本は剥製標本 (登録番号3M299) 及び全身骨格組み立て標本 (3M302) として科学館で保管している。

II 発見状況

事例 1. (3M299)

日時：1994年4月16日

場所：高津区下作延506

国道246号線から、10mほど脇道に入った路上で発見された。246号線は交通量が多く周囲は住宅街である。西へ1km程の所には、市の緑ヶ丘霊園とそれに

続く東高根森林公園がある。

情報提供者：菊地政宏氏

事例 2. (3M302)

日時：1994年5月13日

場所：多摩区東生田2-14-5

多摩区生田緑地から北東に伸びる市道 (通称民家園通り) の路上で発見された。路上には血痕が確認された。隣接する生田緑地 (約50ha) は、市北部ではまとまった緑地であり、タヌキの生息密度が高いことが報告されている (山本, 1993)。

情報提供者：明石孝子氏

3M299, 3M302は共に「タヌキ」の死体があるという連絡で木下が収集した。



写真 1 川崎市多摩区東生田で発見された
ハクビシン死体 (3M302)

* 1 財平岡環境科学研究所

* 2 川崎市青少年科学館



図1 川崎市域におけるハクビシン発見場所 (●)
1 : 高津区下作延(3M299) 2 : 多摩区東生田(3M302)



図2 3M299の発見場所 (●)
(川崎市発行1/10000地形図使用)



図3 3M302の発見場所 (●)
(川崎市発行1/10000地形図使用)

表1 ハクビシン外部計測値

登録番号	3M299	3M302
性別	♀	♂
体重 (kg)	3.35	2.5
全長 (以下cm)	94.0	82.1
頭胴長	53.5	45.1
尾長	40.5	37.0
後肢長 (爪有)	8.4	8.3
” (爪無)	7.9	8.0
歯の磨耗状態* ¹	3	1

*¹ 歯の磨耗 1 : ほとんど磨耗せず
2 : やや磨耗 3 : 激しく磨耗

表2 ハクビシン内部計測値

登録番号	3M299(♀)	3M302(♂)
骨折部位	右前肢	無
出血部位	無	無
欠損部位	無	無
脱毛部位	無	無
臓器計測 (g)		
腎臓 右	6.4	5.9
左	6.0	6.5
栄養状態		
皮下脂肪厚 (mm)		
腰回り背部	—	1.0
” 腹部	—	1.0
腎臓周辺脂肪重量 (g)		
右①*	0.0	0.8
②	0.0	0.4
③	0.0	1.2
左①	0.18	1.1
②	0.0	0.5
③	0.0	1.6
大網膜重量 (g)	54.33	14.0
腸間膜” (g)	35.64	10.9
生殖器 (g/長径mm)		
(♀卵巣、♂精巣)		
右	0.55/1.85	1.6/17.5
左	0.27/1.95	1.8/19.0
胃内容物重量 (g)	55.0	22.0

*①R脂肪 (ライニーの方法で周辺部を除去した腎臓周辺脂肪)

②R以外の腎臓周辺脂肪③合計 (①+②)

Ⅲ 調査方法

収集日に写真撮影，外部計測を行い，冷凍保存した。同年9月25日に和光高校にて行ったタヌキ解剖会で同時に解剖を行った。外部観察を行ったあと，解剖に入り，胃内容物・腸内糞等を採取した。また，栄養診断を行うため，皮下脂肪厚，大網膜，腸間膜，腎臓周辺脂肪を測定した。

Ⅳ 調査結果

外部計測，内部計測値を表1，表2に示した。

1. 死因

3M299(♀)は路上で発見され，外傷は見られなかったが，右前肢上腕骨を骨折していた。腹腔内，胸腔内には，出血，臓器の異常は認められなかった。剥製用標本のため，他の部位の観察を行っていないが，交通事故死の可能性が高い。

3M302(♂)は路上で発見され，外傷，骨折，臓器の異常等は確認できなかった。口部出血が確認され，発見された路上に血痕が確認されたが，死亡原因は不明である。

2. 胃内容物

摘出した胃内容物は，湿重量を測定後，アルコールで固定した。胃内容物の食物分析は，胃内容物全量をシャーレ上にあけ，食物種毎にできるだけ細かく区分して行った。シルト状の内容物については，シャーレ上で30倍の実体顕微鏡により検鏡し，同定を行った。

胃内容物分析の結果を表3に示した。

胃内容物のうち，最も多くを占めていたのは，両

個体共にハクビシンの体毛でできた毛玉であった。個体の採取時期が4，5月であり，換毛との関係が考えられる。食物種は3M299ではナメクジ類，3M302では鞘翅目成虫，カタツムリ類，不明果実であった。食物を採食したさいに付随的に，取り込まれたと考えられるものとして，3M299で落葉広葉樹の葉，3M302で樹皮が出現した。両個体共に人為物の出現は見られなかった。

3. 年齢及び繁殖状況

3M302(♂)は，歯の摩耗状態から若い成獣であると推測された。

3M299(♀)の歯は激しく摩耗しており，子宮には胎盤痕(右1左1計2)が確認されたことから，前繁殖期に妊娠した成獣個体と考えられる。死亡時点では，妊娠しておらず，乳汁分泌もなかった。

4. その他

両個体共に，外部観察，胃内容物からは，飼育下からの逸走個体と考えられる要素は，認められず野生のものと思われる。また，消化管内から採取した寄生虫については現在同定中である。

Ⅴ 川崎市におけるハクビシンの生息状況について

川崎市内での確実な目撃情報として以下のものがある。(写真2)

日時：1994年8月31日午後

場所：多摩区西生田1-1-1

日本女子大付属中・高校地内(中庭)

情報提供者：峯岸秀雄氏(日本女子大付属高)

この中庭は校舎で完全に囲われており，校舎を通り抜けて外へ出る構造になっている。中庭で発見後，

表3 胃内容物分析結果

食物種\No.	3M299(♀)	3M302(♂)
鞘翅目成虫		+
カタツムリ類		+
ナメクジ類	+	
不明果実		+
落葉広葉樹の葉	+	
樹皮		+
ハクビシンの体毛	+	+
湿重量	55.0 g	22.0 g



写真2 川崎市多摩区西生田で目撃されたハクビシン
(横山剛氏撮影)

捕獲され校地内の雑木林に放逐されたとのことである。ここは生田緑地から西に約3km離れた30haほどの校地で、校舎を取り囲む雑木林がよく保たれている。

川崎市内でのハクビシンの記録は、今回の2個体の死体と上記の目撃例のみであり、いずれも1994年の記録である。

神奈川県内の近年の分布については、中村・石原(1992)、有馬ほか(1993)によると、相模川以西から以東(県南部地区)への分布の拡大と市街地への進出がみられ、それに伴う農作物の被害があることが指摘されている。また、東京都においても同様に分布域の拡大が指摘されている(金井, 1989, 1991)。中村・石原(1992)によれば、川崎市に隣接、近接する地域では町田市、横浜市旭区において、それぞれ1984年、1989年に生息が確認されており、川崎市への分布拡大はこれらの地域から進出してきた可能性が高い。静岡県(鳥居・大場, 1991)や長野県(山本未発表)でのラジオ・テレメトリー法による追跡調査によれば、ハクビシンには数km以上の長距離の移動をする個体がみられることから、分布域の急速な拡大が容易であると考えられる。

今後、川崎市内とその周辺の分布、生息状況の変動について調査検討していく予定であるが、今回の死体収集がいずれも、タヌキの死体があるとの通報であったことや、中村ほか(1989)の指摘から、ハクビシンはタヌキと混同される場合が多く、目撃情報等の収集には十分な注意が必要であると考えられる。

謝 辞

情報提供者のご協力と解剖にあたっては、都市のタヌキ研究会のメンバーをはじめ多くの方のご協力をいただいた。和光高校の大沢進教諭には、会場の提供等多大なご尽力をいただいた。これらの方々のご協力がなければ本稿はできなかつた。厚くお礼を

申し上げます。

引用文献

- ・有馬征二・野口光昭・鈴木一子(1993)神奈川県における中型哺乳類(タヌキ・キツネ・ハクビシン)の生息状況について(3). 神奈川県立自然保護センター報告(10): 101-114.
- ・金井郁夫(1989)東京のハクビシン進出史. 東京都の自然(15): 1-10.
- ・金井郁夫(1991)東京の中型獣5種640報の分析と考察. 東京都の自然(17): 1-17.
- ・中村一恵・石原龍雄・坂本堅五・山口佳秀(1989)神奈川県におけるハクビシンの生息状況と同種の日本における由来について. 神奈川県自然誌資料(10): 33-41.
- ・中村一恵(1991)神奈川県におけるハクビシンの生息状況(補遺). 神奈川県自然誌資料(11): 75-78.
- ・中村一恵・石原龍雄(1992)神奈川県におけるハクビシンの生息状況(補遺2). 神奈川県自然誌資料(13): 1-6.
- ・塩沢徳夫・坂本堅五・伊藤正宏(1984)神奈川県における中型哺乳類3種(タヌキ・キツネ・ハクビシン)の生息状況について. 神奈川県立自然保護センター研究報告(10): 21-32.
- ・鳥居春巳・大場孝裕(1991)ハクビシンのホームレンジについて. 日本哺乳類学会1991年度大会講演要旨集32.
- ・古内昭五郎・野口光昭・沼田美幸(1988)神奈川県における中型哺乳類(タヌキ・キツネ・ハクビシン)の生息状況について(2). 神奈川県立自然保護センター報告(5): 37-48.
- ・山本祐治(1993)川崎市域におけるホンダタヌキの行動圏と日周期活動. 川崎市青少年科学館紀要(4): 7-12. 川崎市教育委員会.